

# 東日本大震災からの復旧・復興



国土交通省東北地方整備局

企画部長 西尾 崇

# 東北地方整備局の使命

- 東北地方整備局の主業務は、インフラの整備と維持管理。
- 災害発生時は、危機管理としての**防災業務も主業務**となる。

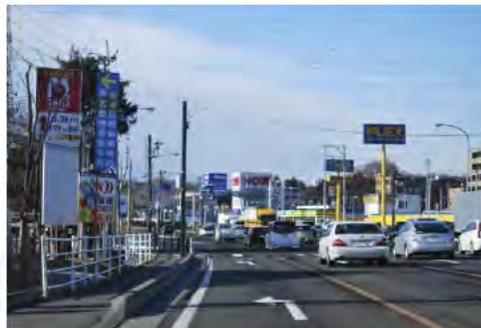
河川（約1,630km）



ダム（18箇所）



道路（約3,100km）



港湾（14箇所）



災害対策要員（約2,800名）、TEC-FORCE隊員（1,255名）、災害対策機械（110台）



# 東日本大震災 概要と津波浸水区間

○被災範囲(津波遡上範囲)は、南北500km以上の広範囲に及んだ。

## 〈地震の概要〉

**発生日時:**3月11日 14時46分

**マグニチュード:**9.0

**発生場所:**三陸沖

(牡鹿半島の東南東、約130km付近)

**深さ:**約24km

**震度:**最大震度 7 (宮城県栗原市)

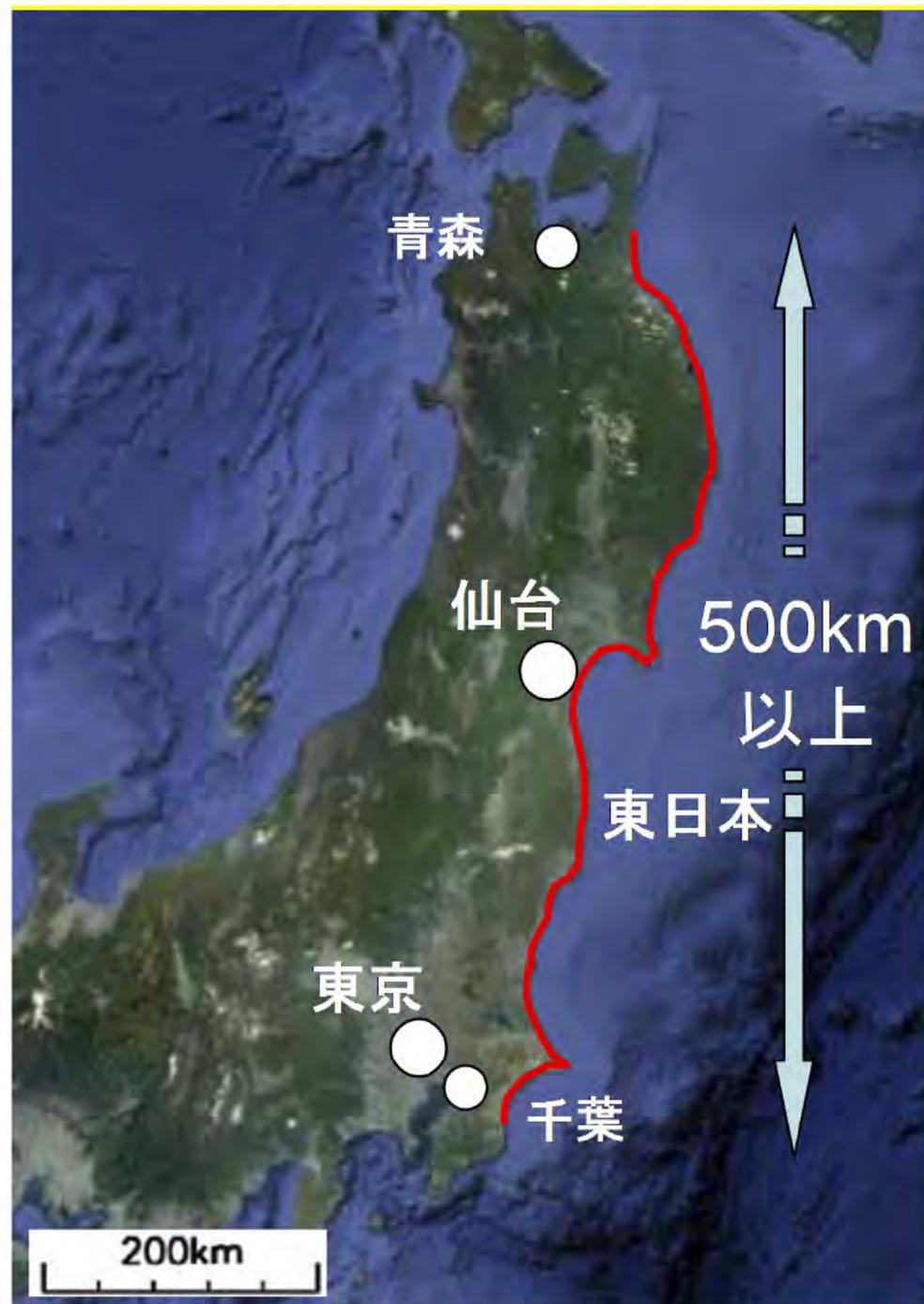
## 〈人的被害、家屋被害の概要〉

・死者15,843人、行方不明3,469人

・全壊127,091戸・半壊230,896戸

(警察庁緊急災害警備本部平成23年12月22日時点)

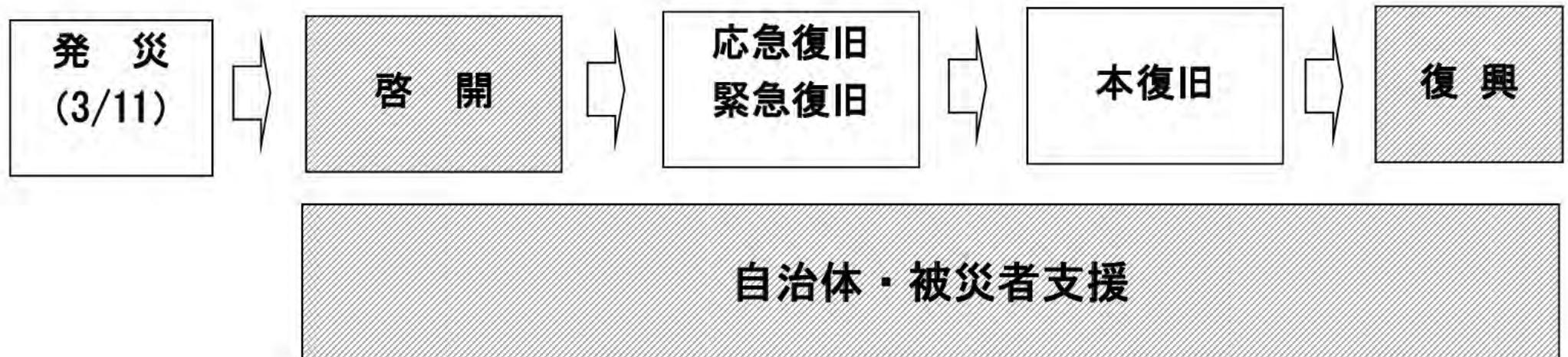
— 津波遡上範囲



# 地震発生からの流れ

○救援ルートを確保する『啓開』と、事後の『復興』を追加。

○沿岸自治体が大被害を受け、『自治体・被災者支援』も本格的に実施。





# 仙台空港“再生”

- 仙台空港など、海岸周辺の広いエリアで浸水。
- 排水ポンプ車を集中投入。総排水量 約500万m<sup>3</sup>、25mプール14,000杯分。
- 仙台空港復旧・再開(4/13)に寄与。



H23.3.13撮影



H23.3.24撮影

3/17より排水開始



# 緊急復旧(河川)



【復旧前】



【復旧後】



いしのまき かまや

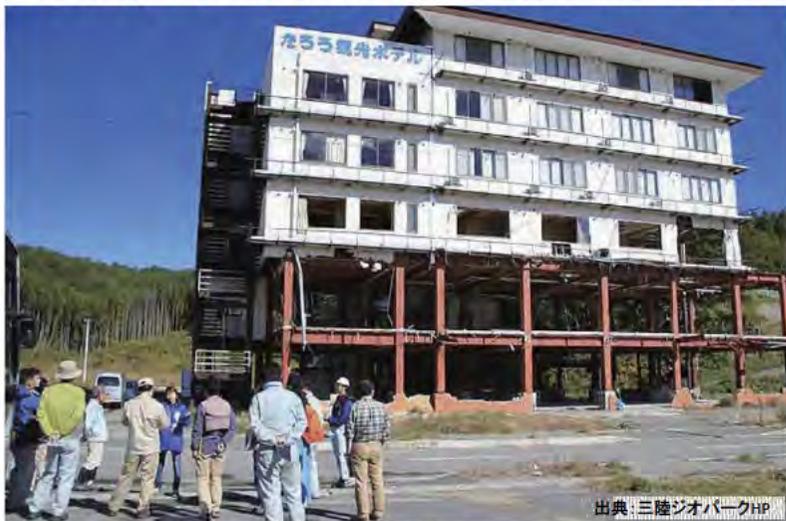
・道路兼用堤防で交通路を確保(暫定1車線で供用)(北上川:宮城県石巻市釜谷地区) 6

# 東日本大震災からの復旧・復興事業の進捗状況

復旧・復興事業計画		2011年3月11日時点	2019年8月31日時点	2019年9月以降
東北地方整備局	復興道路・復興支援道路 計画延長 <b>550km</b> ※ ※国土交通省が中心となって整備している路線	供用中 160km(29%)	開通済 <b>397km</b> (72%)	事業中 <b>153km</b> (28%) 2020年度までの開通予定公表
	河川堤防 復旧・復興延長 <b>48km</b> ※ ※直轄河川堤防(河口部) 〔阿武隈川、名取川、鳴瀬川、旧北上川、北上川 の5河口〕	被災・未整備延長 ▲ 48km( 0%)※ ※5河口の要整備延長	完成延長 約 <b>42km</b> (87%)※ ※5河口での整備済み延長 4河川完成済み (阿武隈川、鳴瀬川、北上川、名取川)	事業中 約 <b>6km</b> (13%)※ ※旧北上川のみ
	港湾防波堤 復旧延長 <b>8,920m</b> ※ ※大規模被災防波堤 (八戸港、釜石港、大船渡港、相馬港)	被災延長 ▲8,920 m( 0%)	復旧延長 <b>8,920m</b> (100%)	全て復旧
自治体	まちづくり ①災害公営住宅 約29,400戸 ②民間住宅等用宅地※ 約18,200戸 ※防災集団移転促進事業、土地区画整理事業等	① 0戸( 0%) ② 0戸( 0%)	① <b>29,069戸</b> (99%) ② <b>17,793戸</b> (98%) ※「住まいの復興工程表」による (H31.3末現在)	① 約 <b>280戸</b> ( 1%) ② 約 <b>430戸</b> ( 2%) ※「住まいの復興工程表」による (H31.3末現在)

# 震災の教訓を伝える震災遺構等

## 震災遺構 たろう観光ホテル(岩手県宮古市)



出典:三陸ジオパークHP

4階まで浸水、2階までは柱を残し流失。  
館内では、震災当日に同ホテルで撮影された津波の映像も視聴可能。

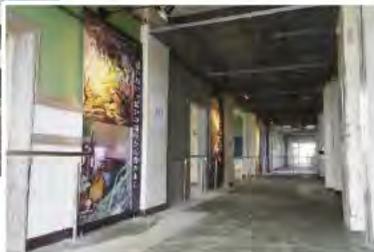
あらはま

## 震災遺構 仙台市立荒浜小学校(宮城県仙台市)



出典:仙台市HP

<1階廊下>



震災当時は、児童や教職員、住民ら320人が避難し、2階まで浸水。  
防災・減災の取り組み、模型などによる震災前の町並みも体験可能。

## 震災遺構 奇跡の一本松(岩手県陸前高田市)



<震災前の高田松原>



「名勝 高田松原」は、江戸時代(約350年前)から白砂青松の景観。(約7万本の松林)大津波に唯一耐え残った松が「奇跡の一本松」として復興のシンボルに。

りょういし

## 津波の石碑(岩手県釜石市両石町)



<東日本大震災では  
ガレキに埋もれる>



津波の惨禍を繰り返さないために先人が残したメッセージ(石碑)  
中央と右側の2基は明治29年、左の1基は昭和8年の碑。

# 震災伝承ネットワーク協議会

○震災伝承をより効果的・効率的に行うためのネットワーク化に向けた連携を図ることを目的に、「震災伝承ネットワーク協議会」(整備局、被災4県1市)を発足。(平成30年7月)

○併せて同協議会のもとに「震災伝承検討会」を設置し(平成30年12月)、学識者、被災市、産業界等からも幅広く意見を聴取。

## 震災伝承ネットワーク協議会

### 【構成委員】

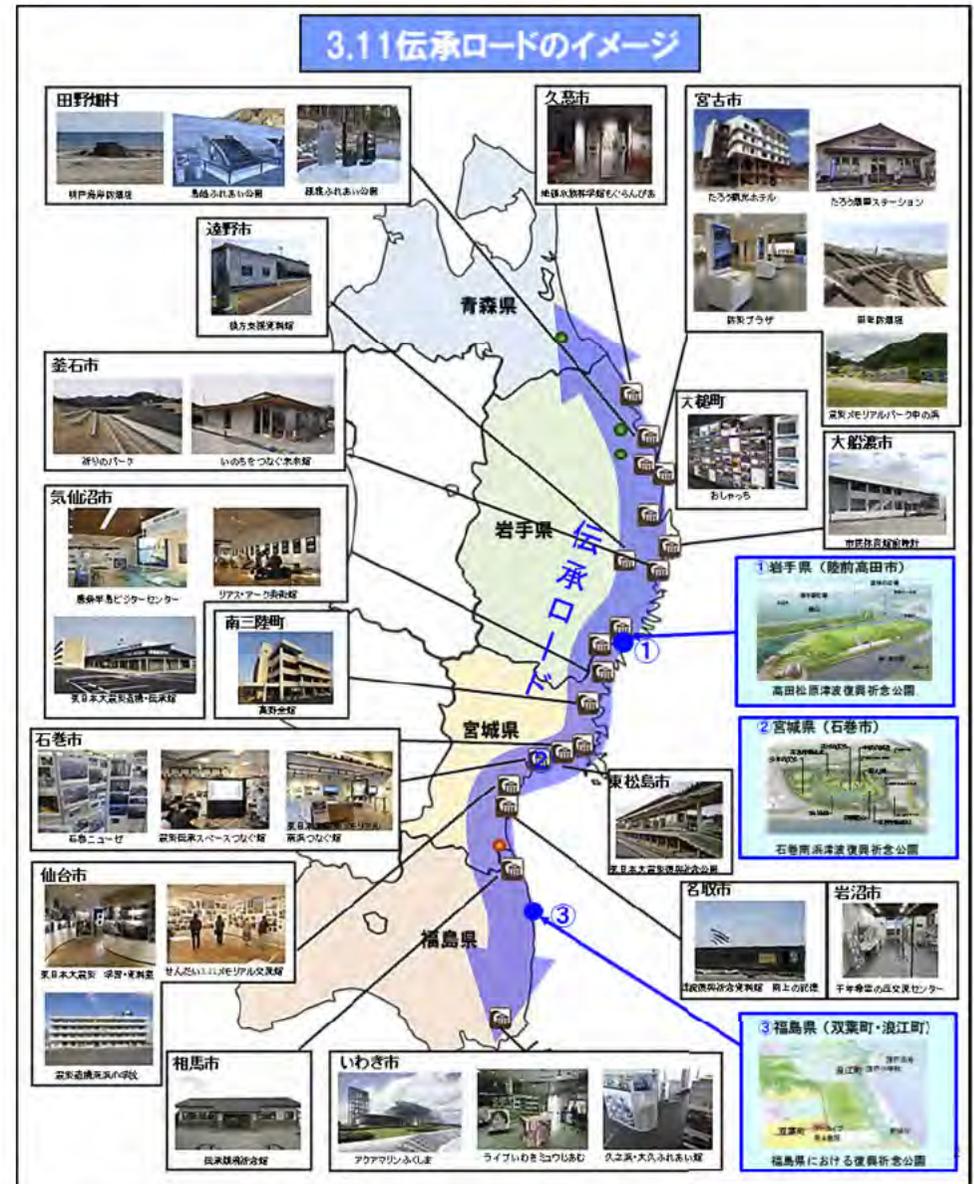
東北地方整備局 局長(会長)、  
企画部長(副会長)  
建政部長

青森県 県土整備部長  
岩手県 復興局長  
宮城県 県土整備部長  
福島県 震災復興・企画部長  
土木部長  
仙台市 企画調整部長  
土木部長  
まちづくり政策局長  
都市整備局長



## 震災伝承検討会

【座長】	■今村 文彦	東北大学災害科学国際研究所長
【委員】		
学識者	■小沢 喜仁	福島大学教授
	■南 正昭	岩手大学教授
	■涌井 史郎	東京都市大学教授
民間業団体等	■小縣 方樹	(一社)東北観光推進機構会長(代表理事)
	■海輪 誠	(一社)東北経済連合会会長
	■鎌田 宏	東北六県商工会議所連合会会長
	■千葉 嘉春	東北建設業協会連合会会長
	■等々力 健	日本放送協会仙台放送局長
	■平田 尚久	(一社)日本建設業連合会東北支部長
自治体	■小林 眞	八戸市長
	■山本 正徳	宮古市長
	■亀山 紘	石巻市長
	■清水 敏男	いわき市長



# 震災伝承ネットワーク協議会 取組方針

○産学官の連携により、震災伝承をネットワーク化しつつ、被災地の交流促進や地域創生、防災力の強化を図る。

## 1. 震災伝承ネットワークの運営・伝承ロード形成

- #1 伝承施設等の公募・分類・管理・広報
- #2 伝承ロードの形成
- #3 伝承施設における連携事業の推進

### 震災伝承施設の募集

- 募集対象：東日本大震災に関わる遺構、慰霊碑、モニュメント等の施設
- 募集期間：(第一次募集) H30.12.3~H31.1.31

第一次募集の登録 192箇所(9/1時点200箇所)

### 施設の特徴により分類

訪問しやすさ ⇒ 駐車場など

理解しやすさ ⇒ 案内員、多言語対応など

分類に応じ、統一した標章(ピクトグラム)の運用



標章(ピクトグラム)



▲設置されたピクト入り案内看板

## 2. 防災プログラムの基盤形成と開発

- #4 伝承すべき技術や震災遺構等のアーカイブ化
- #5 地域に対する防災教育プログラムの提供(学校、自治体、企業等向け)
- #6 官民連携における復旧活動の可視化



出典: 明治日本の産業革命遺産HP



出典: せんだい3.11メモリアル交流館HP



出典: 震災津波伝承施設展示等基本計画

## 3. 復興に向けた地方創生・地元支援

- #7 地方活性化コンサルティング事業
- #8 一般向けツーリズムのツアー化企画
- #9 国内カンファレンス、国際会議等の開催や支援



地域活性化協議会  
(提供: 東北国営公園事務所)



出典: 三陸ジオパークHP



出典: 世界防災フォーラム@仙台2017  
実行委員会HP